

巻頭言

山口市で開催される
第26回全国大会へのお誘い阿部 明典
(千葉大学文学部)

本年度の全国大会は6月12日(火)から6月15日(金)に山口市で開催される。山口市は室町時代には大内文化が花開き、西の京と謳われた。かの雪舟もここで多くの作品を残した。そして現在でも、瑠璃光寺など、まだその香りが所どころに残っている場所である。

そのような場所で今年は全国大会を開催する。

歴史の重みの中で議論、交流などを行うことにより、古くからある文化を体験し、刺激を受け、そこから新たな発想が生まれてくると期待している。

したがって、大会のテーマを「文化、科学技術と未来」とした。大会にテーマを付けるのは初めてだそうである。しかしながら、それ以上に変わったのは、大会の開催が4日間になったことである。かつて、チュートリアルや国際ワークショップを2日付けて5日間開催のことはあったが、会議を4日間開催するのは初めてであると思う。近年投稿数が増え、並列セッションが増えたのが大きな理由である。ちなみに、今年度は日本語セッションに対して490件ほどの投稿申込があった。恐らく、ここ数年で最高の投稿数であると思われる。

先ほど、日本語セッションと書いたが、今年は、新しい企画として、国際オーガナイズドセッションを行う。これに対しても3セッションのオーガナイズがあり、40件ほどの投稿があった。全国大会の中で、オーガナイズドセッションは新しい研究分野を提示してそこで議論を行うという大会の中でもかなり活気のあるセッションである。その国際版を今年、新企画として始めることとなった。初めてなので、どうなるかわからないが、活気ある議論が行われ、将来的に海外からの参加のインセンティブになることを期待する。

また、2011年に軽食付きシングルセッションとして復活させ、活況だったインタラクティブセッションも継続する。本セッションはデモなどをしながらじっくり議論できる場であり、発表者、聴講者ともにさまざまなことを発見できるチャンスのある場でもある。

昨年に引き続き行われる学生が企画するセッションは、今年はシングルセッションにして行うので、多数の方に参加できると思われる。筆者は昨年自分が座長を務めるセッションが長引いて参加できなかったのが、今年こそは参加できると期待している。ぜひ、人工知能の将来を担う若者が企画・議論するセッションに、多くの方々のご参加をお願いしたい。

大会の中で通常セッション以外にも企画を行う。

福祉会館のロビーで14日木曜日に、近未来チャレンジを最近卒業したチャレンジの中の福祉関係のデモ(ポスター)を行う予定である*1。本セッションに関しては、一般(市民)の方も見るようにする予定なので、人工知能のアピールになるのではないかと期待している。

これ以外に、当初考えていなかったが、今回の大会の特徴ともいえることがある。それは、やや離れた複数の会場で開催することになったことである。メイン会場である山口県教育会館、ゆ〜あいプラザ山口県社会福祉会館、山口県自治会館は、ほぼ同じ敷地内にあり、一回外に出ないといけないうが、相互に5分程度で移動できる。それ以外に、メイン会場からは徒歩で15分ほどかかる(実は、歩くのも気持ちいい)が、小バスを巡回させる予定である会場も使う。実は、大会候補地として山口市に視察に行ってこれらの施設を見たときに、このような「場」で議論を行うと普段と異なった議論ができるのではないかと思ひ、会場間がやや離れているが、あえてこれらの会場で会議を行うことを決めた。

明治24(1891)年に建てられた豪農・美祢家の居宅で、山口の大架構の民家として代表的な建物の一部を移築した山口ふるさと伝承総合センターにある「みやび館」がその一つで、和室の一軒屋を使つてのセッションとなる。須

*1 情報編纂に関しては、残念ながら、並列した時間帯に講演を行っているため今回行えない。

永剛司氏(多摩美大)と松村真宏氏(大阪大)のオーガナイズするオーガナイズドセッション, ラファウ・ジエプカ氏(北海道大)のオーガナイズする国際オーガナイズドセッションがここで開催される。和室という空間を駆使したセッションが行われると期待される。

もう一つの会場は明治36(1903)年県立図書館が開館し蔵書の増大に伴って、大正7(1918)年に建設された赤れんが造り3階、建築面積141.08m²の書庫(設計は藤本勝往)を小規模な公共文化ホールとして保存再生された「クリエイティブ・スペース赤れんが」である。れんがはイギリス積みで一見シンプルな構造であるが、細部に凝った細工が見られる建物で、セッションによっては、このスペースを有効に利用するのではないかと期待している。僭越ながら宣伝してしまうが、筆者のオーガナイズするオーガナイズドセッションもここで開催する。

このように従来の座学中心のセッションとは少し違ったことができる仕組みも今回は導入してみた。と同時に、西田豊明会長の期待する別空間とする議論もここでできるのではないかと思う。

総会と表彰式も従来は大ホールのような所で行っていたが、今年は、菜香亭という、明治10年頃、料亭として創業。山口の迎賓館として、井上馨、伊藤博文、佐藤栄作ら時代を担った人々が集った場所を移築した施設で行う。日本の歴史に深く関わった政財界人・文化人直筆の書、料亭時代の価値ある所蔵品などが公開されている場所で、椅子から開放されて畳の上で坐って行くとともに、歴史ある所で総会と表彰式を行うのは感慨深いのではないかと期待する。

市内全域とはいかないが、一つの建物に閉じた世界ではなく、街を移動しながらの大会も、街を体で体験できるといふ意味で面白いのではないかと思われる。

さらに、大会の前日であるが、6月11日(月)にYCAM(Yamagichi Center for Arts and Media, 山口情報芸術センター)でメディア系のワークショップを行う予定である。YCAMは世界的にも有名なメディア美術館である。そこで須永氏(多摩美大)ほか、角薫氏(はこだて未来大)、小方孝氏(岩手県立大)、松下光範氏(関西大)の作品が並ぶ。一般市民が当然観覧に来る場所であり、これらの展示を見て、体験して、人工知能を身近なものと思っただけのことを期待している。会員の皆様も時間の許す限り、参加していただきたいと思う。会場とは全く違ったアートな空間での展示は、(やや学術的な)大会とは違った雰囲気になると思っている。

ここにはあえて書かないが、本大会は交流会を始め、参加者が気持ち良く交流できるさまざまな企画を盛り込む予定である。山口はややアクセスしづらいところかもしれないが、ぜひ、多くの方に全国大会に参加し、議論し、楽しんでいただきたいと思っている。

また、国際会議では、家族サービスの要素をもつ運営が最近ではしばしば見られる。今回、山口市で開催するにあたって、そのような要素も含まれたのではないかと思っている。会議の開催される山口市の隣は湯田温泉街である。家族で宿泊できる施設も多い。さらに、山口市内はもちろん、周りには、秋吉台、萩、津和野などの、のんびり過ごすことのできる場所がある。このような環境で家族サービスをするのもよいし、もちろん、個人でゆっくり楽しんでいただいてもよいと思う。

最後になるが、全国大会は一人だけの力では何もできない。大会委員の方々の多大な協力の賜で成り立っている。さらに、山口市コンベンション協会の村川千尋さんには、今回の大会開催実施にあたって多大なる協力をいただいている。さまざまな企画を立てられているのも彼女のお蔭もある。もちろん、大会への参加者の積極的な参加によっても大会は成り立っており、成否も左右される。

このように会議を盛り上げて下さる皆様に感謝するとともに、大会実行委員長として大会の宣伝を兼ねて本稿を書いていることをここに記す。